

科目名・単位数	陶芸A	( 2 )単位	学習レベル	基礎
---------	-----	---------	-------	----

<p>学習目標</p> <p>① コース基礎よりもより専門的な技術の習得と、主に沖縄の伝統技術を学びながら、それらを発展させていく力と発想力を養う。</p> <p>② 気象状況や制作の仕方など常に自然との流れの中での制作であることを知り、先人の知恵を学びながら自らの制作過程に生かす態度を身につける。</p> <p>③ 素材の持つ魅力を知り、自己表現と兼ねあわせながら「造形的美」「要の美」を両立できる自由な創作活動を目指す。</p>
---

学期	学習内容	学習のねらい	提出物
	<p>1 道具作り(こて、かんな、しっぴきなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流木を用いたコテ作り</li> <li>・結束鋼を用いたカンナ作り</li> </ul> <p>2 ひねり基礎(かたまり作り, 紐作り)</p> <p>① 抹茶碗 かたまり</p> <p>② どんぶり 紐</p> <p>③ 花瓶 紐(30cm以上)</p> <p>3 たたら基礎</p> <p>① 銘々皿</p> <p>② 大皿</p> <p>3 焼成基礎</p> <p>① 釉かけ</p> <p>② 窯詰め</p> <p>③ 焼成方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素焼き 850℃前後</li> <li>・本焼き 1230℃前後</li> <li>OF 酸化焼成</li> <li>RF 還元焼成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形態にあった道具を、身近な材料で作る。</li> <li>・ひねりによる成形の基礎を学ぶ</li> <li>・かたまり作りによる成形の基礎を習得する。</li> <li>・のばし→締め</li> <li>・紐作りによる成形の基礎を習得する</li> <li>・接着→のばし→締め</li> <li>・釉薬と焼成方法の基礎を理解し、焼き上がりを予測しながら、施釉出来るようにする。</li> </ul> <p>※焼成作業は特に安全面に注意が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窯詰めから焼成までの基礎を理解し、安全面に注意しながら作業を行えるようにする。</li> <li>・施釉から焼成についてポイントをまとめる。</li> </ul>	<p>1 こて2種</p> <p>2 カンナ</p> <p>3 しっぴき</p> <p>4 抹茶碗3種</p> <p>5 どんぶり</p> <p>6 花瓶</p> <p>7 銘々皿</p> <p>8 大皿</p> <p>9 焼成レポート</p>
後期 (10月～3月)	<p>4 土作り 2kg 2kg 2kg</p> <p>5 ろくろ基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 菊練り</li> <li>・ 中心</li> <li>・ 土殺し</li> </ul> <p>6 ろくろ課題Ⅰ</p> <p>① 湯飲み</p> <p>② 茶碗</p> <p>③ 皿</p> <p>7 ろくろ課題Ⅱ</p> <p>④ カップ&amp;ソーサー</p> <p>⑤ ポット</p> <p>⑥ 自由制作(1点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すいひを行うことで素材の再生方法の理解と、計画的・経済的な使用を考える。</li> <li>・ ろくろ成形の基礎を学ぶ。①</li> <li>・ 菊練り、土殺し等の意味と手の動きを理解させ、繰り返し行うことで伝統の技を習得させる。</li> <li>・ ろくろ成形の基礎を学ぶ。②</li> <li>・ トンボを用いてセットものを作る</li> <li>・ 加飾を工夫する</li> <li>・ 実用的な形とデザインについて考える。</li> <li>・ これまで学んだ様々な技法を応用して制作できるようにする。</li> </ul>	<p>10 土2kg</p> <p>11 土2kg</p> <p>12 土2kg</p> <p>13 湯飲み</p> <p>14 茶碗</p> <p>15 皿</p> <p>16 カップ</p> <p>17 ソーサー</p> <p>18 ポット</p> <p>19 自由制作</p>

<p>評価の観点と方法</p> <p>① 関心・意欲・態度 基礎技術習得のためのねばり強さと、失敗の原因を追及し何度でもやり直す態度を評価する。</p> <p>② 発想や構想の能力 アイディアスケッチや作品の制作過程において発想や構想の能力を評価する。</p> <p>③ 創造的な表現の技能 提出された作品から基礎技術の習得度および表現の技能を評価する。</p> <p>④ 鑑賞の能力 合評会、展示会、プレゼンテーション等を通して互いの作品の良さを的確に表現できるか評価する。</p>
--

使用教科書・副読本	無し	実習費	2,000 円
-----------	----	-----	---------

<p>教材・道具等</p> <p>白土(信楽), 赤土(壺屋), へら, こて, 切り糸, なめし皮, カンナ, 釉薬, 等</p>
--